

校名

栃木県立宇都宮白楊高等学校

栃木県宇都宮市元今泉8丁目2番1号

生徒数

856名 (2022年4月時点)

農業経営科長の冨山義和先生は話

設立

明治28年(1895年)4月1日

学 科

農業科:農業経営科、生物工学科、 工業科:情報技術科 食品科学科、農業工学科

商業科:流通経済科 家庭科:服飾デザイン科

和牛甲子園出場歴

第1回~6回まで、全て出場

JR宇都宮駅から徒歩15分ほどの場所にあるキャンパスには、教 室や各種実験室のほか、果樹園、温室、馬場など多彩な施設が設 けられている。高根沢農場は、4haの牧草地と県内の農高で最大の 3.5haの水田があり、広大で平坦な関東平野で各種実習を実施しや すいのが特徴。毎年5月、全学科の1年生は、高根沢農場の水田 で田植えを体験する。

栽培は難しいとされているが、宇都 イタリアンライグラスとチモ チモシーは、寒冷地以外での 約3年前にチ ha の 圃

の牛に与えつつ、

新たな飼料として

「地域の畜産にも

殻や濃厚飼料を混ぜたものを一部

ルロースが主要成分。これにも

彼らが食べている粗飼料

る。このクラフトパルプは同社が開 バルプ」を実験的に牛に給与してい

し国内で製造したもので、

高品質

入することで、環境にやさしい循環 たな試みにも積極的だ。 県内

農業高校6校と日本製紙と連携 国産木材を使用した「クラフト

うちの学校



栃木県立宇都宮白楊高等学校

JR 宇都宮駅から車を走らせること約30分。街の喧騒はすっかり消え、 関東平野の広大な農地に囲まれた高根沢農場が目の前に現れた。 高根沢農場は、宇都宮白楊高校の実習の場。

牛舎をはじめいたるところで、生徒たちの明るい声が響いている。 朗らかな生徒たちに世話されている牛も、健康でどことなく楽しそうだ。 創立から130年弱にわたり、多くの農業関係者らを輩出してきた、 宇都宮白楊高校の魅力を詳しくお伝えする。



33 ちくさんクラブ21 Vol.145 ちくさんクラブ 21 Vol.145 **32**

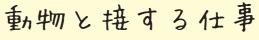
失輩"牛児"の姿に感動

牛の名前は 生徒が決めています

冨山先生街と菊地修平先生

回和牛甲子園を見た女子生徒は 感動した」と振り返る。 先輩牛児が情熱をぶつけ合う姿に つ「和牛甲子園」だ。 今年1月の第6 れた枝肉を食べたという生徒は「脂 くおいしかった」と笑顔を見せた。 しっかりとのっていてジューシー。

クラフトパルプを使った研究を更に 専攻を決めた彼らの目には、確かな なども体験したという2年生。幅広 進化させ、 野菜の栽培を学び、 粗飼料を中心とした飼養管理や、 先輩たちが取り組んできた自 次回の和牛甲子園で 畜産だけでなく果樹 3年生で畜産分会の 稲の手植え



たくさんの生徒に囲まれて興奮

強く綱を引くなど思いも

しかし、 実習で

牛たちとの屋外実習の花が咲

穏やかな性格の「つぼみ」と、 のブラッシング。対象となったのは、 人馴れしていない「北斗七星(ケンシ 宇都宮白楊高校の1 取材時の主な実習内容は、 高根沢農場で実習を受けてい 年生は、



物と接する仕事を目指す生徒も多 徒の進路は畜産の分野に限らず、 徒の多くが動物好き。 ーや動物園の飼育員など、 それぞれの夢に合わせた指 本校に通う 卒業後の

お世話しているから牛は怖くない」

生徒たちは「もう10回以上、 らぬ行動を取るケンシロウ。



。飼、育、の、こ、だ、わ、り、



快適な環境で くつろぐ牛

「牛に優しく」のモットー通り、 環境も接し方も優しい



「牛に優しく」を肥育上のモットー としており、牛の体調や牛舎の環 境を改善するためのアイデアは柔 軟に取り入れている。約3年前に 牛舎に設置した「ハエトラップ」は、 生徒たちが発案した。ハエが好み そうな液体を入れたペットボトル製 のトラップを吊るし、ハエを捕獲す る。ハエが減り、牛のストレスが軽 減されている。

ましやま このみ 増山 木乃実さん

藤野 綾音さ

わたなべ な な み 渡邊 菜々美さん

茎が細く、葉もやわらかいチモ シーは、牛が好んで食べる。高根 沢農場にはロールベーラーやオート ラップマシーンもあるため、乳酸発 酵させた牧草をラップして長期保 存することも可能。「いつでも牛に 良質な牧草を与えられるようになっ たのをきっかけに、体調を崩す牛 が減りました。粗飼料をたくさん食

べるようになりました」(冨山先生)。

セルールルスルポッイルンルトル



学校が保有するオートラップマシーン



農場で収穫された牧草